社会科学習指導案

日時　　平成25年7月2日
場所　　埼玉県立〇〇小学校5年〇組
児童　　35名　（男子16名女子19名）
授業者　　小森谷貴子(　B1E11015　)

１．単元名　「沖縄県の良いところ」

２．単元の目標と評価基準

（１）　沖縄県について、自然条件・地形・土地利用・産業・交通・現地で働く人々の工夫や努力に関心・関心を持ち、意欲的に調べたり考えたりできるようにする。（関心・意欲・態度）

A：ノートに本単元に関する内容を５つ以上書いていた。
B：ノートに本単元に関する内容を１つ以上書いていた。
C：みんなと調べるときに教師や仲間に注意されることが多かった。

（２）　産業・土地利用について、地形や気候などの自然条件や、立地条件を関連させながら考えることができる。（思考・判断）

A：8割以上、つながりを押さえた予想がノートに書かれていた。
B：少なくとも１つはつながりを押さえた予想がノートに書かれていた。
C：つながりを押さえた予想がノートに書かれていなかった。

（３）　沖縄県の地形や気候などの自然条件と産業・土地利用のありかたの因果関係を理解し、自然条件から産業・土地利用のありかたを証明できる。（技能・表現）

A：地図とグラフが有効的に使用されていた。
B：地図とグラフが使用されていたが、有効的でなかった。
C：地図とグラフを使用していなかった。

（４）　沖縄県で有名な食材を生産などに携わっている人々の工夫や努力としてどのようなことが、なぜ盛んに行われているのかを理解する。（知識・理解）

A：つながりを押さえたノートが書かれており、テストの点が8割以上だった。
B：つながりを押さえたノートが書かれており、テストの点が4割以上だった。
C：つながりを押さえたノートが十分に書かれておらず、テストの点が4割未満だった。

３．単元について

(１)学習指導要領との関連

本単元は、小学校学習指導要領社会科の以下の記述と関連している。

(１)我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを考えるようにする。 イ 国土の地形や気候の概要、自然状況から見て特色ある地域の人々の生活

これを踏まえて本単元ではあたたかい地方として沖縄県を教材にして地形や気候、人日tのくらしなどについて学習する。特に、以下四つをおさえて単元を構成する。

・沖縄県について観光という児童にも馴染みのあることを提示して、興味を引く

・盛んに調べ学習を取り入れ、地図や資料を活用する

・国土の環境(特に気候条件)が人々の生活、産業を密接な関連を持っていることを考える

・他の「あたたかい地域」についても取り上げ、説明的知識の育成を図る

(２)小学校社会科での系統性について

本単元は指導の系統で言うと、三つの側面を有する。

一つは、自然条件の「地形・土壌、気候」という観点と土地利用のあり方に関連があるという見方を育成することである。５年生の県学習は、３，４年生で学んだ「様々な地形が土地利用に関連している」という見方に、「気候条件」を関連させて学ばせる。つまり、気候という観点を入れて土地利用のあり方を説明できるようにするのは、「日本の各地の暮らし」単元になって初めて行われる。比較的小さい沖縄県の場合、土地利用のあり方を地形とだけ関連させて学習させるのは難しい。そこで気候要素を取り入れる。

二つめは、人文・社会条件の中の「交通」という観点から、本州などの日本各地に沖縄県の特産物を運ぶために、どのような手段を利用し、物によって、交通手段をどのように使い分けているのかという見方を育成することである。５年生になると、都道府県の学習も後半となり、様々な事象についての知識が定着したことが考えられるため、沖縄県とその他の日本の地域をつなげる「交通」に着目する。その交通が発展している所では、どのような会社や工場が存在しているかということもリンクさせながら、多角的に広い視野をもって、考えさせる。

三つめは、人文・社会条件の「歴史・文化・政治」という観点である。特に３、４学年で触れた「米軍基地」について、日本に置かれている米軍基地の４分の３は沖縄県が有しており、現在まで様々な問題を抱えてきた。本単元では「あたたかい地方のくらし」として沖縄県を取り上げるため、この「米軍基地」において復習も兼ね、理解を深めたい。主に小単元(４)においてこの学習を進めていくが、小単元(１)での地図帳を活用する際にも、調査学習において、児童が自分自身で「米軍基地」の存在に気付くことができるように指

導にあたりたい。

系統性から考える具体的な活動としては、小単元（１）において地図帳を活用し、沖縄県の自然条件、「地形・土壌、気候」を学習し、その後の小単元（２）（３）（４）それぞれにおいて、小単元（１）で学習した「地形・土壌、気候」と関連づけながら、沖縄県の家づくり、産業と交通、文化と歴史を学習していく。

平成20年度版	自然条件		人文・社会条件	
	地形・土壌	気候	交通	歴史・文化・政治
（区・市町村）	高い（土地） 低い（土地）	×	鉄道（駅） 道路	×
中学年 （都道府県）	高原、山地 低地	×	橋（道路） 船・フェリー（港） 飛行機（空港）	米軍基地 伝統産業
第５学年 （特色ある日本各地） （日本）	平野 河川	気温 降水量		

学習活動(農業・林業・水産業・工業・運輸・通信・情報)
(特に 農業・水産業・米軍基地・船・飛行機・気温・降水量・河川について関連づけながら学習を進める)

４．指導計画

「沖縄の人々のくらし」(15時間扱い)

〇オリエンテーション　（１時間）

ねらい：沖縄県の学習に対する興味・関心をもたせるために、面白いと思われる内容（観光名所や海の様子）を紹介する。その際、児童に沖縄県について知っていることを多くたずねていく。その上で同時期の沖縄県と埼玉県の写真を提示し、次回の内容につなげる。

主発問：沖縄県といえばどんな場所でしょうか。知っていることをあげてみましょう。

評価：(関心・意欲・態度)→ノート

○小単元(１)沖縄県の気候の特徴　　（２時間）
ねらい：埼玉県と比べた沖縄県の気候の特色を調べる。気温や雨量、台風が多い、水不足になりやすいということなど、地図帳などの資料を活用する。また、雨温図について難しいと感じる児童のために拡大コピーをし、今後一人ひとりが雨温図を読み取ることができるように丁寧に指導する。今後の学習の基盤になる。
主発問：沖縄県の気候はどのような特徴があるかな。埼玉県と比べてみましょう。
評価：(知識・理解)→単元終了後のテスト
評価：(関心・意欲・態度)→ノート

○小単元(２) 沖縄県の家づくり　　（２時間）
ねらい：沖縄県の民家の特徴とその理由を気候の特色と関連させて調べる。前回までの授業で学習した内容を思い出し、それを生かし、資料を活用して調べる。水不足に備えたタンクや低くて頑丈な家づくり、瓦の止め方、防風戸、シーサーの意味などについて理解する。
主発問①：沖縄県はよく台風がくるのに、なぜ水不足になりやすいのでしょうか。
主発問②：沖縄県の民家は、なぜこのようなつくりになっているのでしょうか。
評価：(思考・判断)→ノート
評価：(知識・理解)→単元終了後のテスト

○小単元(３) 沖縄県で盛んな産業と交通　　(★本時１／４時間)
ねらい： 沖縄県で盛んな産業について主にさとうきび、かじき漁を取り上げて、その後でそれらを本州や他国に運ぶ手段についても学習する。さとうきび(農業)の学習については、沖縄県の水田率の低さがただ単に気温に要因するものではなく、さとうきびのほうが沖縄県の気候に適しており、高価で取引きされることも学習する。かじき漁(水産業)の学習については、地図帳で沖縄の海の様子や海流について視覚的にとらえ、農業の学習も生かして、自然条件を生かした漁であることを読み取る。また、沖縄県が本州とは離れた島であることを考慮し、空路や海路によって運ばれる物の違い、効率について考える。
主発問①： 沖縄県でさとうきびが多くつくられているのはなぜでしょうか。
主発問②：沖縄県で、かじき漁が盛んな時期が日本の他の地域と違うのはなぜでしょうか。
評価：(知識・理解)→単元終了後のテスト
評価：(関心・意欲・態度)(思考・判断)→ノート

○小単元(４) 沖縄の文化と歴史　　（２時間）
ねらい：沖縄県に多くの観光客が訪れる理由を考え、自然や文化にどのような特色があるのかを学ぶ。そのさい、オリエンテーションで提示した観光名所などについての資料も活用する。また、沖縄県に住む人々の願いを教科書から読み取り、かつて戦場になったとい

う歴史や、現在の基地問題についても学ぶ。
主発問①： 沖縄県にたくさんの観光客が訪れるのはなぜでしょう。
主発問②：この空港のようなものはなんでしょうか。（基地問題・戦争の歴史）
評価：(知識・理解)→単元終了後のテスト
評価：（関心・意欲・態度）→ワークシート

○小単元(５)奄美大島の紹介新聞をつくろう！　（４時間）
ねらい：沖縄県に近い気候をもつ奄美大島について、各自調べたいことを明確にし(沖縄県で学んだことを生かし、ある程度の指定をする)、地図帳や資料集、図書館やインターネットを利用して調べ、新聞という形でまとめる。その際全員が「気候」との関わりをもつことを１つ以上調べるようにし、沖縄県との違いや埼玉県との違いも考えながらまとめることができるように注意する。また、お互いの新聞を鑑賞することで「あたたかい地方」についての説明的知識を肉付けし、最後にこの単元全体を振り返り、まとめる。
主発問：奄美大島の気候にはどのような特色があるでしょうか。
評価：（関心・意欲・態度）→新聞、ワークシート

５．本時について

(１)本時の目標
　沖縄県のさとうきびや果物づくりなどについて資料をもとに調べ、人々が気候の特色を生かした農業を営んでいることを捉えることができるようにする。

(２)本時の準備
・地図帳、教科書、ノート
・水田率の表(全国都道府県別　耕地面積を元に作成)
・沖縄県のおもな農作物の作付面積(棒グラフ)
・沖縄県の土地利用図
・米・さとうきびの農業カレンダー
・さとうきび(実物か写真)
・さとうきびの特徴に関する資料

（3）展開

段階		・主な学習活動 (●教師の発言) (○予想される児童の反応)	指導上の留意点	児童に対する手立て
導入 15分	事象提示 8分	・前回までの学習を想起する。 ●前回の社会科の授業を思い出してみてください。「沖縄県」の「何について」学習したか、覚えている人はいますか。 ○家　○シーサー　○水不足 ●そうですね。「家づくり」には沖縄県の気候が関係していたことを覚えていますか。調べてみて分かった沖縄県の気候の特徴にはどんなものがありましたか。 ○１年中あたたかい　○雨が多い ○台風がよくくる　○水不足 ○川が少ない ・本時の導入を行う ●そうですね。今日は、今まで調べてきたこれらの情報を活かして、沖縄県の農業について考えていきたいと思います。まずはこの表を見てください。 (水田率の表を提示) ●水田率とは、その地域の、田畑等に使われている面積の中に、水田がどれくらいあるかを表している割合のことです。この表からどのようなことが分かりますか。 ○沖縄県の水田率がとても低い	・日本全体と比較すること、一位の富山県と比較することで沖縄県の水田率が極端に低いことを示す ・単に「沖縄県が小さいからだ」と、水田率についての間違った理解をしないように、うまく伝わらない場合には１位の富山県などと比較した例を提示する	・思い出せない児童のために「前回のノートを開いてみましょう」と促す

		●そうです。皆さん気づきましたか。沖縄県は全国で最も水田率が低い県です。なぜだと思いますか。 〇米はあたたかい気候に合わないのかもしれない 〇米は台風に弱いのかもしれない 〇川が少ないから水が足りないのかもしれない ●色々と出てきましたね。どれかが答えかもしれません。では、この表を見てください。 (農業カレンダーの米の部分を提示) ●この表によると、沖縄県ではお米が年に２回もとれています。と、いうことは、お米が育たないわけではないんですね！お米は育ちます。ではなぜお米はあまり作られないのでしょうか。 〇お米のかわりに他のものをつくっているのかもしれない 〇お米を食べないのかもしれない ●そうですね。そうかもしれません。それでは、もう一つ資料を見てください。 (沖縄県の主な農作物の作付面積を提示) ●これは、沖縄県の田畑を何の栽培に使っているのかを表したものです。さとうきびを作っている面積がとても多いのがわかりますね。	・前時までの知識が説明的知識として定着しているかどうか確認する(気候と作物を関係付けて考えることができているか)。 ・農業カレンダーの見方を確認しながら進める。 ・初回オリエンテーションで教師が紹介した作物等を思い出させる。 ・作付面積のグラフを見て、圧倒的にさとうきびが広い面積をとっていることに気付けるようにする。 ・作付面積のグラフが何か理解し、読み取ることができるようにする。	・前時までに学習した気候と作物を結びつけて考えることができていない児童に対しては、例として寒い地域でマンゴーがつくられていないこと等を挙げ、気候と作物との関係を気づかせる。 ・予想がつけられない児童に対して、輸入だけしているとすれば沖縄県は借金だらけになってしまうだろうと提示する。

	課題設定 1分	・本時の課題を設定する。 沖縄県でさとうきびが多く作られているのはなぜだろう。 ●今日は、さとうきびを中心に、沖縄県の農業について学んでいきましょう。		
	予想 6分	・予想を立てる ●みなさん、さとうきびを見たことはありますか。見たことがある人？ これが実際のさとうきびです。 (さとうきびの実物、用意できなければ写真を提示する) 結構大きくて、しっかりしています。 ●それではまず予想を立ててみましょう。今まで学習したことを思い出しながら、沖縄県でさとうきびが多くつくられている理由を考えてみましょう。ノートに２つ以上、書いてみてください。（３分後の時間を指定する） ●さとうきび(の実物、写真)はこちらから回しますので、(実際にさわって)見て参考にしてください。 ●はい、時間です。いくつか皆さんの予想を聞いてみたいと思います。（３人程指名する） 〇台風に強いのだと思う 〇水不足でも大丈夫なのだろう 〇暑さに強いのだろう	・できるだけたくさん書かせる。 ・ここでも気候と作物を関係付けて考えることができるように、必要であれば前時までのノートを見るように促す。	・書くことができない児童に関して、沖縄とはどういうところだったかを想起させ、そのような沖縄でたくさんつくられるということは、どういうことだろう。と丁寧に課題を提示する。

展開 20分	調べ学習	・調べ学習を行う ●それでは、教科書や資料集、地図帳、それから今から配る資料を使って、沖縄県でさとうきびが多く作られている理由を調べてみてください。 (教師が用意した資料を配布する) (15分後の時間を指定する) ●さとうきび以外のことでも、調べていて気になることや、「へぇ。」とか「なるほど。」と思ったことがあったらそれはノートの右側に書き留めておいてくださいね。 ●時間ですので、調べて分かったことを発表してください。 さとうきびは… ○年に２回収穫されている ○台風に強い ○水不足に強い ○沖縄の方言で「ウージ」と言われている ○暖かい気候に合っている ○日照りや干ばつに強い ○他の地域ではあまり栽培されていない ○高く取引される ○あとを継ぐ人が減っている ○他にもパイナップルやマンゴーなど、暖かい気候を活かした作物がつくられている ○時間と人手がかかる ○収入があまり多くない ○働く人が減ってきている ○軍用地が多く、耕地が狭い	・様々な情報から必要な部分を抜き出すことができるようにする(配布資料は敢えて多めにする。) ・さとうきび作りの問題点や、さとうきびに関する知識等、調べていて分かったことは無駄にならないように書き留めさせる。 ・しかし、課題からはそれることなので別のスペースに書き留めさせる。 ・自分が分からなかった結果については色ペン(赤では抵抗があると思うので、青や緑など)でノートに記入させる。	・どう調べていいか分からない児童に対して、まずは農業カレンダーと作付面積の読み取りを行い、さとうきびが年に２回とられている(たくさん出荷できる)ことと、多くの作付面積がとられていることを関係づけてとらえることができるようにする。 ・調べ学習を早く終えてしまっている児童に対しては、さとうきび栽培の問題点を資料から読み取らせ、その問題点に対する解決策を考えるようにさせる。 →ノートでコメントする

まとめ 5分	たしかめ	・本時のまとめをする 沖縄県では、冬に暖かく、台風が多い気候の特色に合ったさとうきび作りがおこなわれている。また、時間と人手がかかり、耕地が狭いことが問題点となっている。 ●皆さんよく調べられていました。沖縄県では、気候の特色に合わせてさとうきび作りが盛んに行われていたのですね。また、いいことばかりではなく、問題点もわかりましたね。 ・次時の予告をする ●次回は海に出て、沖縄県の水産業について学んでいきます。		

（4）本時の板書計画

◎沖縄県の気候の特色
・一年中暖かい　・台風が多い
・水不足　・川が少ない
◎沖縄県の水田率
→ある地域の耕地面積全体の中に水田がどれくらいあるかを示す割合
↓
日本一低い！　……なぜ？
＜予想＞
・暖かいのに弱い？　・台風に弱い？
＜結果＞
・他の作物が多くつくられているから
⬇
さとうきび　の作付面積がとても広い！…なぜ？
＜予想＞
・暑さに強い　・台風に強い
・水不足でも大丈夫

沖縄県でさとうきびが多く作られているのはなぜだろう。

＜結果＞
・年に２回収穫されている
・台風に強い
・水不足に強い
・暖かい気候に合っている
・日照りや干ばつに強い
・他の地域ではあまり栽培されていない
・高く取引される

・沖縄の方言で「ウージ」と言われている
・他にもパイナップルやマンゴーなど、暖かい気候を活かした作物がつくられている

◎問題点
・あとを継ぐ人が減っている　・時間と人手がかかる
・収入があまり多くない　・働く人が減ってきている
・軍用地が多く、耕地が狭い

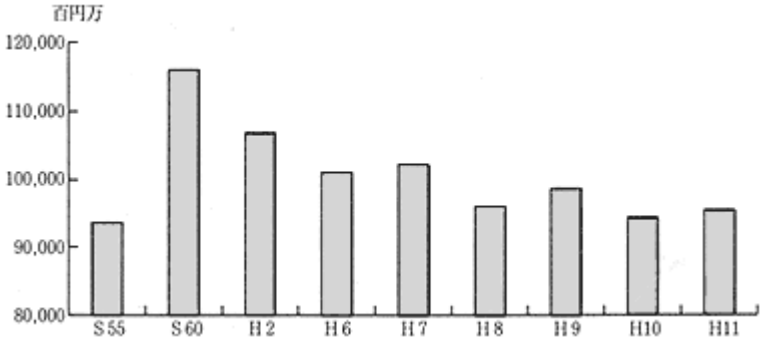
◎まとめ
沖縄県では、冬に暖かく、台風が多い気候の特色に合ったさとうきび作りがおこなわれている。また、時間と人手がかかり、耕地が狭いことが問題点となっている。

◎感想

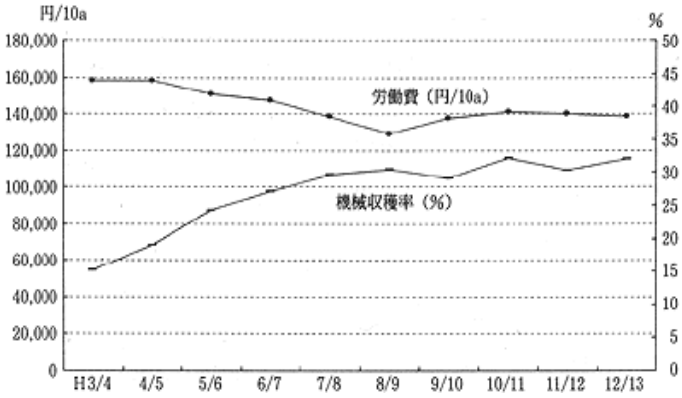
（5）主な資料

都道府県	水田率(%)
全国	５４．２
１位)富山県	９６．０
33 位)埼玉県	５５．３
47 位)沖縄県	２．２

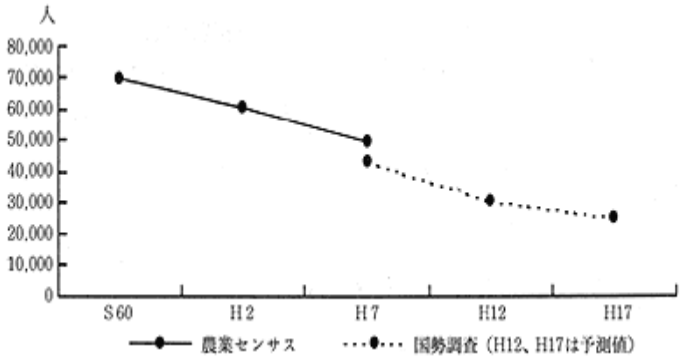
都道府県別耕地面積(平成 23 年)より
…**都道府県別水田率**



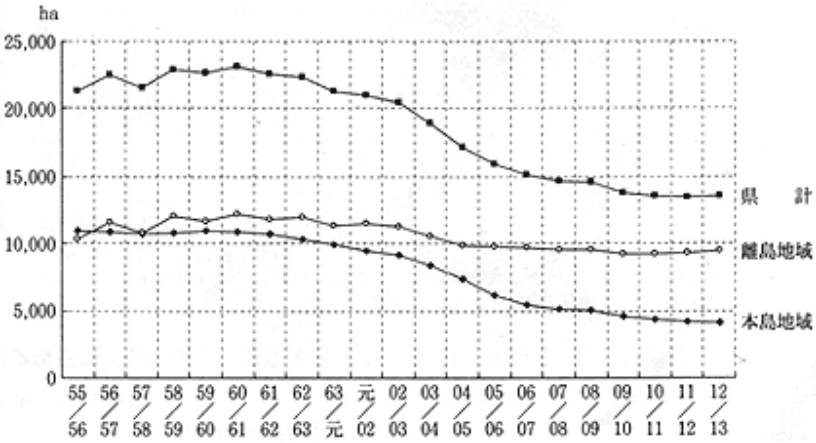
↑沖縄県農業粗生産額の推移



↑農業就業者数の推移と予測



↑さとうきび **10a** 当たりの労働費と機械収穫率の推移



↑さとうきび収穫面積の推移

↓さとうきびの地域農業に占める位置

項　目	年　次	項　目	沖縄県全体	本　　島	離　　島
面　積 (ha)	H11	全耕地面積	42,200	15,538	26,642
		さとうきび栽培面積	19,994	4,654	15,340
		比　率 (%)	47.4	30.0	57.6
農家戸数 (戸)	H12	総農家戸数	27,088	16,690	10,398
		さとうきび栽培農家戸数	18,833	10,330	8,503
		比　率 (%)	69.5	61.9	81.8
粗生産額 (千万円)	H11	農業粗生産額	9,525	5,721	3,807
		さとうきび生産額	1,966	543	1,423
		比　率 (%)	20.6	9.5	37.4

資料:　全耕地面積:「耕地面積調査」、総農家戸数:「センサス」、粗生産額:「生産農業所得統計」 さとうきび栽培面積、さとうきび栽培農家戸数:「さとうきび及び甘しゃ糖生産実績」